



# 簡単で、誰でも撮れて、 古典的な「洞窟写真」の撮影方法

大岡 素平 (OOKA, Sohei おきなわワールド文化王国・玉泉洞所属 沖縄県在住)

自分のイメージ通りの洞窟写真を撮るには、それに適した撮影機材や試行錯誤が必要です。今回はこの誌面をお借りし、洞窟写真を撮る方法として誰でもできそうなものを案内したいと思います。これがきっかけで、洞窟写真を撮る人がひとりでも増えたら幸いです。

## 「シルエットの洞窟写真」を撮る

洞窟は闇が主役ですが、そのなかに光の一筋でもあるとなかなかぐっとくるものです。

もっとも簡単で、誰でも撮れて、古典的で、ぐっとくる「シルエットの洞窟写真」の撮影方法を説明します。

### ①必要な機材

・ 三脚／カメラ／ストロボ／ケーブルリリース／防水ケース  
三脚はカメラがぐらつかなければ、何でも良いです。

カメラは中古で壊れていない安いカメラ(フィルム用)が良いです。3,000円くらいのもので可。必ず絞りが調整できて、シャッタースピードにバルブ(B)撮影できるものを選んでください。

ストロボは中古でガイドナンバー32くらいのもので良いです。

ケーブルリリースは必要です。無いと画像がぶれます。

### ②撮影方法

洞窟へカメラを持っていきます。完全防水のケースに入れていきましょう。

撮る場所は、通路の輪郭が円形状になっているような、こじんまりした通路が適当です。ストロボ光が壁に反射して、かっこよくなることが多いからです。

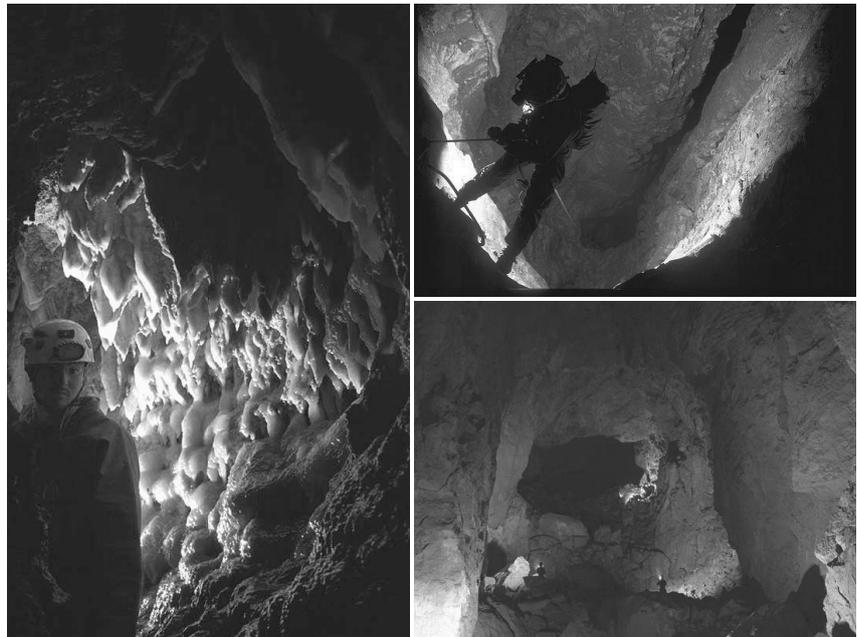
カメラを立て、正面にモデル、その後ろにストロボを持った人を置きましょう。

ピントを合わせ、カメラのシャッタースピードをバルブ(B)にしてシャッターを押します。リリースボタンを戻さない限り、シャッターは開いています。

その間にストロボ持ちの人は、カメラとモデルの一直線上に立ち(もしくは座り)、ストロボ光がレンズにダイレクトに入らないように注意してストロボを発光させます。

モデルはモデルらしく立っててください。見た目が見えなくて背の高い人で、シンプルにまとまった装備を身につけている人が、モデルに適しています。

一カ所で5枚から10枚ほどシャッターをきります。必ず、レンズの絞りを変えてシャッターをきってください。ストロボの光量は、計算式を使って絞りを設定しても正しいかどうか怪しいので、絞りを変えて写し



①シルエットの撮影方法で撮影。壁に反射した光が回っている

②応用すると堅穴も撮影できる

(ストロボの代わりにフラッシュバルブを下方に向けて発光)

③応用すると大きなホールも撮影できる(ストロボを手前から奥まで数カ所で発光。一カ所で何回も発光している。ストロボの移動時は、レンズにヘッドランプの光が入らないように板かなにかで遮っておく)

ておきます。絞りのかわりに、ストロボの距離を近づけたり離したりしてもよいです。そのうちの何枚かは、適正光量になっていると思います。

これで、おそらくは、古典的でぐっとくる洞窟写真が撮れていることでしょう。

## 「小さな鍾乳石(マクロ)」を撮る

デジカメはマクロが得意です。コンパクトデジタルカメラを使った簡単なマクロ撮影を説明します。動いたり逃げたりしない小さな鍾乳石は簡単に撮れます。